

# 光

卓泰



4年 伊橋卓泰くん

※「曲がり」と「はね」の筆使いに気をつけて書きました。



1年 千葉千聡さん

※わたしのかわいがっているいぬです。さんぽにつれていくとよろこびます。



『わたしのぽんた』

あつまれ みんなの力作



5年 林愛実さん

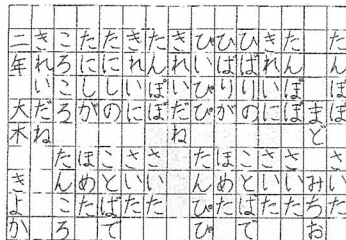
五年 林 愛美

# 花

※「はらひ」や「こめ」がむすかしかつたけれど、上手に書けました。



2年 大木清雅さん



『たんぼぼさいた』

※はるののほらにさいたかわいいたんぼぼのうた。ていねいにかきました。



『幸せがとびかう町』



6年 石川雄大くん

※こんな町になつたらいいなというイメージを抱きながら仕上げました。



3年 宮田佳奈さん

※学校のしゅうじは、はじめででした。一ばんめの紙にはとてもうまくかけました。

# かな



## ひかり歌壇



鈴木甲子幸（白磯）  
五時告ぐる鐘菜園に響きおり  
鍬を拭いて没り陽眺むる

ミレーの晩鐘に通ずる静な感性を  
想起させられました。

伊藤 定男（尾垂）

再会を予期せし友が供養の  
庵に歌集携え遙々と来ぬ

戦友同志の会合は固く結ばれて居  
るでしょう。結句に表現されまし  
た。

藤代 敏子（宮内）

咲く花を待たで散らせる春嵐

友の遺作の句集ひもとく

ひたすら句作に専念された友の遺  
作に更なる悲しみと懐かしさを覺  
えます。

高梨 キヨ（木戸）

蕾もち芽吹きさわだつライラック

息子の住む北の雪は解けしか

庭のライラックの芽吹きにつけて  
北国に暮す御息を思ふ親心が伝  
わります。

評者詠 竹内 紀葉

百年に余る歳経て今に咲く  
石付き黄梅勁く優しさ